JSABS　日本ビジネス実務学会
会報 No. 72

発行日／2020 年 3 月 31 日発行
編　集／日本ビジネス実務学会（広報委員会）
事務局／〒470-1192　愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98　藤田医科大学
医療科学部医療経営学領域内
URL: http://jsabs.hs.plala.or.jp/

≪ブロック研究会活動報告号≫

会長あいさつ 「2019 年度学会活動方針４つを省察」

会長　米本倉基（藤田医科大学）

組織学習理論で著名な米国の哲学者、故ドナルド・A・ショーンは「組織と個人は柔軟であり、生涯にわたって得られる教訓を取り込み続けるべき」とする省察的実践の重要性を示しました。私は昨年 6 月の会長就任時、4 つの分野で本学会をさらに飛躍させたいと述べましたので、組織学習理論にならい約 9 ヶ月間、いったい何をしていたのかについて省察してみることにします。

1 つめは、ビジネス現場の起業家や地域活動のリーダーを招いた講演会、 シンポジウムや視察・見学会など近接学会などとの共同開催です。これについては、学会全体としては実現できておらず落第点です。しかし、例えば 1 月の中部ブロックでは、地元七尾市の町おこしに取り組むコンサルタントの森山奈美さんを研究会に招聘するなど、各ブロックにおいてはビジネス現場との交流が活発なようです。ですから、この各ブロックの流れを学会全体としてつなげ、押し上げていくようなもの、例えば学会主催のシンポジウムや調査・視察会を他学会との共催も視野に入れ早急に企画します。

2 つめは、女性をテーマにした働き方改革に関する分野での情報発信です。これも私の専門であるにもかかわらず、まだ実現できていません。働き方改革はビジネス実務の最も重要なテーマのひとつですから、個人的には海外も含め、先進的な企業や団体の事例研究を行う研究班を立ち上げ、できれば書籍を出版したいと考えています。そのためには研究資金が必要ですので、今年から理事会を全面的にテレビ会議で行うなど、経費圧縮で捻出しようと目論んでいます。

3 つめは、論文作成方法を習得したい実務家教員や社会人大学院生向けの「楽しく真剣に学べて、ためになる学会」づくりですが、これは 8 月から 3 コースの「論文書き方セミナー」の企画が募集段階に入っています。原則オープン参加ですので非会員の受講者で学会に魅力を感じて入会してくれるきっかけになればと思っています。ちなみに、学会 PR 用の「学会ご案内」のリーフレットも作成しました。

4 つめは、グローカルのネット・ワークの強化です。上海財経大学・吉崎奈々先生のコーディネイトによる充実した国際研究会を今年 3 月に中国上海市で開催の予定でした。しかし、ご周知のとおりの新型肺炎拡大の影響でやむなく延期となりました。大変残念ですが、なんとか本年中には開催したいと思います。

このように会長就任後の約 9 ヶ月を省察しますと、まだまだ合格点を頂けないようです。後期は、これら課題に加えて J-STAGE への登録など会員の皆様にとって「楽しく真剣に学べてためになる」企画を実践していきたいと思っておりますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

CONTENTS

会長あいさつ …… 1
委員会活動報告 …… 2
ブロック研究会活動報告
　北海道ブロック、関東・東北ブロック …… 3
　中部ブロック、近畿ブロック …… 4
　中国・四国ブロック、九州・沖縄ブロック …… 5
ブロック研究会研究発表一覧 …… 6
ブロック研究会運営委員一覧 …… 7
事務局からのお知らせ、新入会員紹介、第 39 回全国大会案内 …… 8

委員会活動報告

総務・企画委員会　　委員長　関憲治（昭和女子大学）

今年度の総会や学会報等でも幅広くご案内いたしましたが、会員の研究活動の一層の充実のため、今年度から「ビジネス実務研究助成」を開始いたしました。今年度の「ビジネス実務研究助成」には、多数の正会員の方にご応募いただき、総務企画委員会における審議と理事会における決定を経て、多くの研究を採択いたしました。今年度の採択件数等の詳細は次回の総会でご報告させていただく予定です。

採択された方には研究を開始いただいております。なお、すでにご案内のとおり、今回助成を受けた研究については、2021 年度日本ビジネス実務学会全国大会（2021 年 6 月に開催予定）で成果発表していただきます。

この「ビジネス実務研究助成」の金額は現時点では少ないですが、特に実務家から大学・短大教員に転身されて日が浅い方や、社会人大学院生の方（ただし、当学会の正会員の方）で今後本格的にビジネス実務分野の研究を行っていきたいとお考えの方に、積極的にご応募いただきたいと考えております。

来年度も募集いたしますので、奮ってご応募くださいますようお願い申し上げます。

研究推進委員会　　委員長　見館好隆（北九州市立大学）

昨年末の理事会で、研究推進委員全員とメールにて議論して作成した「学会研究の活性化に対する、研究推進委員会からの検討項目の提示」を発表しました。以下はその抜粋で、主要なメッセージは「実務家および実務経験を経た教員（実務家教員）」の育成となっています。

１．セミナーやワークショップの開催：本学会の会員の中で、実務家教員は、大学院を経由した教員に比べ、論文執筆のスキルが不足していることが危惧されるため、実務家教員の論文執筆のための FD（研究会やセミナー、ワークショップなど）を検討することを提案しました。

２．研究に対する助成金など：実務家教員に対する FD をテーマとした研究を募集することを提案しました（論文執筆に加え、教育スキル向上、例えば授業評価を向上するための授業設計改善の研究も含めて）。

３．他学会などとの研究交流など：実務家教員に対する FD を他学会とブロック研究会ベースで共同開催することを模索することを提案しました。

４．学会誌・報告書など：学会誌とは別に、実務経験を活かした授業例や、実務における人材育成などの実践例をまとめた報告書として、別冊で発行することを提案しました。

これらのうち、１は 2020 年度にスタートすることになりました。２についても総務・企画委員会より、申請された 8 件すべてが採択され、これからの研究活動の活発化が期待されます。３についても 2020 年 3 月に上海財経大学との交流が企画されましたが、コロナウイルスの影響で中止。国内の他学会連携も含めて、2020 年度中での再スタートが期待されます。４については編集委員会で引き続きご検討いただくことになりました。

最後に、そもそも「ビジネス実務」というものが、研究対象として曖昧ではないかという問題も議論されました。つまり、本学会の研究課題を、曖昧な部分のメリットを生かしつつ、もう少し明確にできないか、という議論です。言い換えるならば、今後の新規会員獲得も見据えて、他学会等との位置関係を明確にして、本学会のモデルとなる研究を打ち出していくことが、研究促進の一つの手段になりえないか、という問いにもなります。理事会ではまとまりませんでしたが、引き続き研究推進のテーマとして議論していきたいと考えています。

編集委員会　　委員長　手嶋慎介（愛知東邦大学）

今年度から、「ビジネス実務論集規程」および「ビジネス実務論集執筆要領」改訂に伴い、投稿募集からはじまる審査プロセスのすべてを、学会公式 Web ページおよびメールによるやり取りにて行いました。投稿者および関係する皆様方のご協力により、大きな混乱もなく発刊することができました。

2019 年度 8 月上旬締切での投稿申込件数は、例年通り 20 件を上回る 23 件となりました。実際の投稿は 19 件、審査通過は 9 編でしたが、その多くは修正を条件とする再審査となりました。通知後、取り下げもあり最終的に再審査を通過したのは論文 1 編、研究ノート 5 編、資料 1 編の計 7 編（うち教育開発 3 編、理論・調査 4 編）となりました。

残念ながら、投稿 19 件中 2 件は受理することができませんでした。編集委員会として二重投稿の可能性があることが確認されたためです。昨今、各研究機関では「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」（平成 26 年 8 月 26 日文部科学大臣決定）に基づき、研究倫理教育及びコンプライアンス教育が実施されています。今後も、本委員会といたしましては、投稿時に不明点がある場合等には投稿者への確認を行い、論集の質の保証に努めたいと考えております。

広報委員会　　委員長　堀口誠信（徳島文理大学短期大学部）

米本倉基・新会長による研究・教育の重点 4 分野を紹介し、第 38 回全国大会（東京大会）の詳細を伝える学会報 71 号を 2019 年 9 月末に発行するにあたり、冊子を各会員に郵送する形式から、メールで通達し、ウェブ上で PDF 文書を閲覧していただく形式のペーパレス化に踏み切ることになりました。

この時点での全会員 386 人については 95.3%のペーパレス化を達成。全国大学実務教育協会や国立国会図書館などへの寄贈団体に加え、賛助会員などへは従来通りの冊子郵送が必要となるため、これらの分を含めるとペーパレス化は 90.1%となります。このことにより冊子の印刷数も劇的に減り、印刷費用も 1 万円に満たない金額に抑えることができました。今後も学会ウェブサイトの活用を通じて、新入会員・ビジターの増員につなげていきたいと考えています。なお、広報委員会専用の E メールアドレスは、昨年度より＜2019jsabs.publicrelations@gmail.com＞となっております。広報希望の案件についてはこちらにご連絡ください。

ブロック研究会活動報告

北海道ブロック

1．ブロック研究会の動向

令和と年号が代わり、社会全体が祝賀ムードに包まれ、ラグビー・ワールドカップ日本大会では、日本が 8 強に入るなど明るいニュースが続いたものの、東日本で秋の台風大雨被害の発生や、年が明けて新型コロナウイルスの流行など、一転して波乱含みの年度末になりました。

北海道ブロックの会員数は現在 24 名ですが、本学会設立当時より評議員なども務められました浅川修二先生がご逝去され、長年ブロック研究会にて折に触れ、アドバイスをいただきました白川先生も引退されて、世代交代をひしひしと感じた 1 年でした。

年度としては 2018 年度になるのですが、ご紹介できなかった活動のなかで、今後の学会活動に示唆を与える事例をご紹介したいと思います。

2019 年 3 月 9 日（土）に「地方創生と人づくり～北海道の学生は地元志向が強い？～」をテーマに、キャリアデザインライブ in 北海道が、北海商科大学で開かれました。主催者である日本キャリアデザイン学会は、関東、中部、関西以外での研究会を「キャリアデザインライブ！」として開いており、2019 年 3 月に、初めて北海道札幌市で開催しました。今回のキャリアデザインライブは、キャリアデザイン学会の主催ですが、日本インターンシップ学会北海道支部、日本労務学会北海道部会とともに、日本ビジネス実務学会北海道ブロックが共催し実施しました。

当日は、玄田有史氏（東京大学社会科学研究所教授）の「地域から発信するキャリアデザイン学」の講演からはじまり、続いて梅崎修氏（法政大学キャリアデザイン学部教授）の話題提供「データから見た地元×学生×家族」、それをうけて、大学生の就職支援をしている赤坂武道氏(株式会社エス・イー・ジャパン代表取締役)、北海道で実際に採用をしている西尾大樹氏(東京海上日動火災保険株式会社北海道業務支援部部長)、U ターン支援している高岡幸生氏(株式会社リージョンズ代表取締役)のシンポジストに玄田先生を交えて、日本労務学会北海道部会の亀野淳氏（北海道大学高等教育推進機構准教授）の司会で、フロアを巻き込んだ産学官の参加者による白熱した議論が展開されました。

「会員にとって魅力ある研究会」とはなにかを模索していた当ブロックにとって、こうした近接学会との共催は、同じ人材育成やキャリアでも、切り口を変えると共通の問題を深掘りできたり、違う面でのアプローチもできるのではないかと非常に参考になりました。

２．研究発表

北海道ブロック研究会は、2020 年 2 月 19 日（水）に北海商科大学にて開催。加藤由紀子（北海商科大学）、和田早代（札幌国際大学短期大学部）、千葉里美（札幌国際大学）、椿明美（札幌国際大学）、和田佳子（札幌大谷大学）の各会員による研究発表が行われました。詳細はブロック研究会研究発表一覧をご覧ください。

３．2020 年度全国大会のご案内

「河水遠く流れて　山隅に峠(そばた)つ 平原千里　地は膏腴(こうゆ)　四通八達　宜しく府を開くべし 他日五州第一の都」((遠くに川がとうとうと流れ、山並みがすぐ近くにそびえている　平原が見渡す限り続き、地味は肥沃である　交通は四方八方に通じ、都とし最適である　いつの日か、世界一の都になるであろう)

この句は、札幌のまちづくりの先人である島義勇(しまよしたけ)が、1869 年（明治 2 年）現在の北海道神宮の背後の丘（コタンベツの丘）から札幌市街地を望んで詠んだものです。150 年を経て、今や日本で 5 番目の大都市となった札幌市で、第 39 回日本ビジネス実務学会の全国大会を開催する運びとなりました。アジアで初めての冬期五輪が開催され、SDGs（Sustainable Development Goals）未来都市としても選定されているまちで、「新時代を展望するビジネス実務」を統一テーマに、2020 年 6 月 13 日（土）と 14 日（日）、北海商科大学を会場として開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

（加藤由紀子　北海商科大学）

関東・東北ブロック

１．2019 年度ブロック研究会の動向

ブロックの新年度は令和元年 6 月の第 38 回全国大会（東京・目白大学短期大学部）に向けた準備に明け暮れました。実行委員会はそのちょうど 1 年前から始動し、メーリングリストの活用など効率的な協力体制で取り組みました。

２．2019 年度ブロックの活動

全国大会後、ブロックの懸案である経費削減と、それに伴う業務の効率化に取り組みました。対策として①持続可能な業務の標準化、②関連資料等のクラウド化、③メーリングリストの活用に加え、テレビ会議の始動を目指すこととしました。①は必要なマニュアルの取捨・整理、②は試行を継続し、③は ZOOM を活用した理事会でのテレビ会議に参加し、当ブロック内でも活用できるようにツールの使用方法をマスターしようと考えています。

３．幻の第 47 回ブロック研究会

2020 年 2 月 29 日に東京工芸大学（写真）で開催予定でしたが、政府の「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」がわずか 4 日前に決定されたこともあり、協議の末、急遽、やむなく中止することといたしました。

基調講演でお招きしていた松井博代氏（博報堂キャリジョ研・代表）をはじめ、発表者、他ブロックからの参加予定者やビジター観覧の方々、そして会場校に対し、申し訳なく思っております。同時に、運営委員同士での日夜、数十件におよぶメーリングリストのやり取りをはじめ、未曾有の事態でのリスク対応を図らずも体験することができました。関わったすべての皆さま方に、改めて厚く感謝を申し上げます。今回の経験は次年度ブロック運営に反映させる所存です。

（小松由美　福島学院大学短期大学部）

中部ブロック

１．ブロック研究会の開催

2020 年 1 月 11 日（土）・12 日（日）の 2 日間、金沢星稜大学において、2019 年度のブロック研究会が開催されました。参加者は 2 日間で 19 名（会員 18 名・非会員 1 名）です。

基調講演では、森山奈美氏（株式会社御祓川・代表取締役社長）に、七尾市におけるまちづくりとインターンシップの実践についてご講演いただきました。その中で、インターンシップの質保証やコーディネータ育成の必要性等の課題について言及があり、学会として共同研究の可能性を探っていくことを確認しました。

2 日間で研究発表 8 件、実践報告 3 件が行われ、会員間の活発な意見交換が行われました。実践報告は今年度からの新たな取り組みで、教職員の指導・助言の下、学生が行なった活動について個人またはグループで報告するものとなっています。学生 5 名の発表に、コメンテーターの教員が意見を述べる形式で進められ、学生・教員共に多くの学びを得ることができました。これら発表の概要については、後述の「中部ブロック会報第 34 号」をご参照ください。

研究会終了後に開催された懇親会には 15 名が参加し、研究分野を超えた交流がはかられました。

２．総会

2020 年 1 月 11 日（土）、研究会の開催に先立ち総会が開催されました。新ブロックリーダーより 2019 年度の運営委員会の報告、ブロック会員の状況、2019 年度の会計報告が行われ、その後、次年度予算案、次年度役員体制、次年度活動方針等が審議され、満場一致で承認されました。また、2020 年度ブロック研究会の開催時期・場所について、運営委員会で検討していくことが確認されました。その他、2020 年度全国大会について情報が提供されました。

３．中部ブロック会報第 34 号の発行

2020 年 3 月に、ブロック研究会の発表内容等をまとめた「中部ブロック会報第 34 号」を発行する予定です。

（中川雅人　中部学院大学）

近畿ブロック

１．ブロック研究会総括

今年度は、リーダーと運営委員が交代し、新体制となりました。原則、これまで計画されてきた企画を継続して実行していくことを方針とし、ブロック会員の皆様にはいっそう喜んでいただけるよう企画等を充実させていくことが委員会にて合意されました。

これまでと同様に、今年度も「ブロック研究会の実施」、「研究助成」、「ブロック報の発行」の 3 つを大きな柱として実施しました。そのうち、研究助成については、本部研究助成の方針にならい、「少額でも多くのブロック会員に助成が行きわたる」ことを狙って、1 年あたり 3 組（1 組あたり 3 万円）へと変更されました。また、年 1 度のブロック研究会の終盤には会員の相互交流を図るための「少額で参加できる情報交換会」が新規で実施されました。

２．第 56 回ブロック研究会

2020 年 2 月 15 日(土)、大手前大学さくら夙川キャンパスにて、ブロック研究会が開催されました。今年度は、参加者の勤務事情を考慮して土曜日開催となりました。風邪等が流行っているため、そういった理由で当日欠席となった会員も多くおられた中、結局、参加人数は、32 名（情報交換会は 28 名）で、大盛況となりました。

(1)総会：ブロックリーダーより、2018 年度活動報告および収支報告があり、さらに 2019 年度の事業進捗状況および決算予測、2020 年度の事業計画と予算案が示されました。以上について、参加全会員の承認が得られました。また、2020 年度の近畿ブロック研究助成の募集が行われました。(2)助成研究最終報告：2018-2019 年度の助成研究最終報告が 1 件ありました。参加者からの質疑応答も行われました。(3)研究発表：3 件の発表が行われ、質疑応答や議論が活発に行われました。(4)研修会：「授業効果検証のための統計的研究方法基礎編」というタイトルで、認知心理学を専門としている吉田千里先生（甲子園大学）による講演が行われました。出席した皆さんは真剣に聴講されていました。(5)情報交換会：研修会講師の吉田先生も交えた参加費 1,500 円の情報交換会が行われました。はじめての企画ということで運営の至らぬところもありましたが、会員の皆様には好評をいただきました。会場校様の多大なるご協力もあり、無事に終えることができました。

３．ブロック報の発行

2020 年 3 月末に、「第 56 回ブロック研究会」における報告・発表・研修の内容を含んだ第 34 号が電子媒体で発行予定です。なお、今回のブロック報には、論文または報告書扱いとされる「研究報告」も 1 件掲載されます。

（坂本理郎　大手前大学）

中国四国ブロック

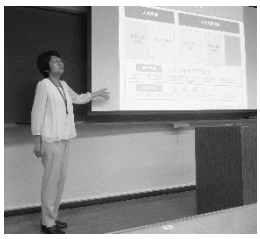
１．ブロック研究会ならびに総会

第36回となる中国四国ブロック研究会は2019年8月24日（土）、25日（日）の2日間、広島女学院大学を会場に開催されました。

招待講演ではこの2ヵ月前の全国大会で奨励賞を受賞した小原寿美氏（広島文教大学・本ブロック会員）が「修正版グラウンデッドセオリーアプローチを用いた研究入門」のタイトルで、現在話題にされることの多い M-GTA による分析方法を解説しました。

研究発表は4件（詳細はブロック研究発表一覧を参照）で、「大学生の就職活動」から「英語」、「高校生と秘書検定」、「女性のライフキャリア」と内容は多彩です。

また、総会では、運営委員のメール審議で合意されたブロック会報のペーパレス化（Web 掲載化）、研究会や懇親会の出欠のメール通達化、そして学生プレゼンの交通費補助が承認されました。学生の発表1件につき1名分の旅費を全額補助するもので、今回の場合総額5万円を超え、かなりの支出とはなりますが、学生にとっても、その指導教員、さらには他校の教員にとっても大変参考になる機会を確保できたものと考えています。



２．学生プレゼンテーション大会

中国四国ブロックが他ブロックに自慢できる点は学生プレゼンの質の高さです。今回で14回目となる本大会では旅費の補助もあり、6組総勢8人の学生が参加し、観客を魅了する発表を披露してくれました。発表者とタイトルの一覧は以下の通りです：

高松短期大学2年・中野葉月、中野穂南「学外セミナー等の秘書科行事を通して学んだこと」

徳島文理大学短期大学部1年・宗続海梨「G20 消費者政策国際会合の通訳サポーターに選ばれて」

中国学園大学3年・林優里「多言語観光マップ政策での『学びと感動』」

中国学園大学3年・大畑莉子、馬場雄史「大学生たちで取組む『笠岡市飛鳥での地域活性化』」

広島女学院大学3年・北倉百々「変わりたいーやらない言い訳よりやりたいと思えるきっかけ」

広島女学院大学3年・平石美紗貴「私の大学生活－成長－」

３．運営委員会

次の37回ブロック研究会大会は2020年8月29日（土）、30日（日）に四国大学（徳島市内）を会場にすることで合意が取られました。招待講演は、四国放送テレビの解説者として活躍中の本ブロック会員・加渡いづみ氏（四国大学短期大学部）による「四国・中国地方各県の県民性に関連した『くらしとお財布のランキング』」（仮題）を予定しております。

（堀口誠信　徳島文理大学短期大学部）

九州・沖縄ブロック

2020年2月22日（土）13：00～18：00に久留米大学福岡サテライト（福岡市中央区）において、第62回九州・沖縄ブロック研究会が開催されました。新型コロナウイルス感染が懸念される中での開催となったため、開催前の準備段階から会場内備品の消毒、参加者への消毒液準備、マスク着用のお願い、会場の換気など衛生面を重視した中での開催でした。

はじめにブロックリーダーの見舘好隆会員から趣旨説明ならびに感染予防対策のチラシ配布とその説明がなされ、参加者への理解・協力要請がなされました。

次に、本田華乃学生会員、井上奈美子会員、北原康司会員、見舘好隆会員の順に研究発表がなされました。授業開発から評価・検証まで幅広い角度から熱心な発表がなされ、フロアからも多くの質疑応答が得られました（詳細は「ブロック研究会研究発表一覧」を参照）。

後半の講演＆ワークショップでは、ゲスト講師に体験的な学習プログラムの開発・実践で著名な和栗百恵氏（福岡女子大学国際文理学部・准教授）を招聘し、「“ふりかえり”の質が、体験学習の効果を高め、人生を切り拓く力を育む」というテーマでご講演いただきました。なんとなく体験学習を実践し、何となく振り返りを行っていた担当者に対し、OECD のキーコンピテンシーや多様な理論的背景の説明、緻密なプログラム設計の事例などを提示しながら、まさに参加者に日々の授業における体験学習での問題点や課題に対する「気づき」を与え、リフレクションを促すものでした。講演の合間に自然な流れで実践されたワークショップでは、和栗講師の巧みな話術とファシリテーションによって、参加者を巻き込み、体験学習の学習サイクルモデルで陥りやすい問題点を実感できる場となりました。「ふりかえり」の質を高めることの大切さを会場全体で共有しあえる講演でした。

参加者は計29名でしたが、九州・沖縄ブロック以外の参加者（北海道、関東・東北、中部ブロックから5名、非会員8名）が約4割を占めました。会員以外の参加も多かったため、最後に北海道から参加いただいた加藤由紀子第39回大会実行委員長から2020年6月開催の全国大会に関する告知をいただき、盛況のうちに研究会を終えることができました。参加者が笑顔で会場を後にする姿を見送ることができ、無事に第62回研究会を終えることとなりました。次回の研究会も会員の皆様、参加者の皆様のご期待にそえる研究会が開催できるよう、ご意見・ご要望等があれば九州・沖縄ブロック宛にご連絡いただきたいと思います。（jsabs.kyushu@gmail.com）

（江藤智佐子　久留米大学）

ブロック研究会研究発表一覧

発表者氏名・所属・タイトル・研究領域（→で表示）の順に掲載

■北海道ブロック

１．加藤由紀子（北海商科大学）
「大学における民法改正による成年年齢の引き下げへの対応と課題」
→【2】ビジネス実務研究　1)ビジネス環境とビジネス実務

２．和田早代（札幌国際大学短期大学部）・千葉里美（札幌国際大学）
「若手社員のキャリア意識調査から展望する大学２年次までのキャリア教育」
→【1】ビジネス実務教育　1）カリキュラム検討

３．椿明美（札幌国際大学）・和田佳子（札幌大谷大学）
「文系大学卒業生の職業選択絞り込みのプロセスM-GTAによる質的調査分析結果から」
→【2】ビジネス実務研究　2)人材育成と能力開発

■関東・東北ブロック

コロナウィルス拡大の影響を受け、ブロック研究会を中止。
以下３件が発表予定でした。仮掲載の形とさせていただきます。

１．山口憲二・金世煥（医療創生大学）
「PBLテーマの決定方法とその進め方」

２．安齋徹（目白大学）
「大学と地方の新しいカタチ～「聖地巡礼インターン」という試み～」

３．堀良平（聖和学園短期大学）
「聖和学園短期大学『キャリアデザインⅠ』における地元企業インタビューの実践と展望」

■中部ブロック

研究発表

１．菅瀬君子（愛知学泉短期大学）
「継（つなぐ）ゼミ活動から育成された社会人基礎力」
→【1】ビジネス実務教育3)教育方法の研究

２．奥村実樹（金沢星稜大学）
「学生プロジェクトによる地域企業を題材とした資料作成とその公表事例」
→【1】ビジネス実務教育 3)教育方法の研究

３．中川雅人（中部学院大学）
「PBLの抱える課題について-地域との連携によるPBLの実践を踏まえて-」
→【1】ビジネス実務教育 3)教育方法の研究

４．岡野大輔（金城大学）手嶋慎介（愛知東邦大学）
河合晋（岐阜協立大学）
「ビジネス実務を考える～『よくわかる社会人の基礎知識』刊行にあたって～」
→【1】ビジネス実務教育　2)ビジネス実務の教育プログラム開発と教材開発

５．河合晋（岐阜協立大学）・竹内治彦（岐阜協立大学）・
見舘好隆（九州市立大学）
「人口減少に向けた産業の担い手育成～高山市でのアンケート調査に基づいて～」
→【1】ビジネス実務教育3)教育方法の研究

６．福山祐介（藤田医科大学）
「看護師が小規模離島で勤務するモチベーションに関する研究」
→【2】ビジネス実務研究　1)ビジネス環境とビジネス実務

７．坂田裕介・村田幸則・服部しのぶ・米本倉基
（以上、藤田医科大学）
「働き方改革による看護管理職の過重労働の検証」
→【2】ビジネス実務研究　1)ビジネス環境とビジネス実務

８．米本倉基・服部しのぶ・村田幸則・坂田裕介
（以上、藤田医科大学）
「進化するティール組織に適応した人材育成の考察と取組み－新しい働き方ができる組織の大学教育－」
→【1】ビジネス実務教育 3)教育方法の研究

実践報告（*学生会員　**学生[非会員]）

１．中村千聖** ・高垣怜佳** ・加藤亮太** ・吉村美路
（愛知東邦大学）
「地域との相互理解を目指した実践的取り組みの報告-地域保育園における協働制作を通じたコミュニケーション活動-」
→【1】ビジネス実務教育　2)ビジネス実務の教育プログラム開発と教材開発

２．島袋泰志* ・阿比留大吉・河合厚志・手嶋慎介
（愛知東邦大学）
「大学の教育プログラムと連動したスタートアップビジネスの事例報告～TOHO Learning House の仕組みと実績～」
→【1】ビジネス実務教育　2)ビジネス実務の教育プログラム開発と教材開発

３．山本玲子* ・河合厚志・手嶋慎介（愛知東邦大学）
「つながる・ひろがる読谷村プロジェクト1.0」
→【1】ビジネス実務教育　2)ビジネス実務の教育プログラム開発と教材開発

■近畿ブロック

１．樋口勝一（追手門学院大学）・苅野正美（プール学院短期大学）・兒島尚子（大阪樟蔭女子大学）・福井就（大手前学園）・仁平征次（仁平ビジネス実務研究所）
「秘書関連資格・検定取得の将来における効果の分析」
［ブロック助成研究最終報告］
→【1】ビジネス実務教育 3)教育方法の研究

２．北村雅昭（大手前短期大学）
「短期大学１年生のキャリア成熟に関する研究」
→【2】ビジネス実務研究 2)人材育成と能力開発

３．阪上富貴子（大手前短期大学）・北村雅昭（大手前短期大学）「短大生の短期インターンシップの効果に関する研究」
→【2】ビジネス実務研究 2)人材育成と能力開発

４．谷口浩二（プール短期大学）
「社会課題解決型企業連携講座」
→【2】ビジネス実務研究 2)人材育成と能力開発

■中国四国ブロック

１．佐々木公之（中国学園大学）
「『ロールモデル教育と就職内定先企業とのPBL』の検証－新卒者への半構造化インタビュー調査を用いて－」
→【1】ビジネス実務教育　3)教育方法の研究

２．堀口誠信（徳島文理大学短期大学部）
「免許更新講習・小学校英語教育SOS支援！への取り組み」
→【1】ビジネス実務教育　2)ビジネス実務の教育プログラム開発と教材開発

３．名和晋也（岡山県立津山商業高等学校）
「ビジネスパーソンの資質を育む現状と課題－高校生に秘書検定の問題を取り組ませて－」
→【1】ビジネス実務教育　3)教育方法の研究

４．吉田順子（広島女学院大学）
「新設科目『女性とライフキャリア』への取組と課題」
→【1】ビジネス実務教育　1）カリキュラム検討

■九州・沖縄ブロック

１．本田華乃（筑紫女学園大学・学生）
「筑紫女学園大学における TBL の運営方式と効果の検証」
→【1】ビジネス実務教育　2)ビジネス実務の教育プログラム開発と教材開発

２．井上奈美子（福岡県立大学）
「大学低学年インターンシップ－事前事後研修の効果と職業価値観－」
→【1】ビジネス実務教育　3)教育方法の研究

３．北原康司（釜山女子大学校）
「氾濫社会に於けるビジネス実務教育の一考察（その４）現状と課題（2)」
→【2】ビジネス実務研究　1)ビジネス環境とビジネス実務

４　見舘好隆（北九州市立大学)・竹内治彦（岐阜協立大学)・河合晋（岐阜協立大学）
「高山市の担い手育成における仕組み作り調査研究（中間報告その 2)」
→【1】ビジネス実務教育　3)教育方法の研究

ブロック研究会・運営委員一覧（2019 年３月現在）

◎はブロックリーダー、○はサブリーダー

■北海道ブロック

◎加藤由紀子（北海商科大学）
○千葉里美（札幌国際大学）
和田早代（札幌国際大学）
高橋秀幸（北海道武蔵女子短期大学）
官尾昌子（北海道武蔵女子短期大学）
森谷一経（北海道文教大学）
田澤早苗（株式会社　ニトリ）
南聡子（国際カラーデザイン協会）

■関東・東北ブロック

◎宮田篤（青森中央短期大学）
○齋藤裕美（多摩大学）
○安齋徹（目白大学）
○澤田裕美（大妻女子大学）
大島武（東京工芸大学）
大塚映（淑徳大学短期大学部）
上岡史郎（目白大学短期大学部）
金世煥（医療創生大学）
木村信綱（福島学院大学短期大学部）
小松由美（福島学院大学短期大学部）
周藤亜矢子（常磐大学）
坪井明彦（高崎経済大学）
長谷川美千留（八戸学院大学）

■中部ブロック

◎中川雅人（中部学院大学）
○岡野大輔（金城大学）
奥村実樹（金沢星稜大学）
坂田裕介（藤田医科大学）
山本恭子（名古屋学芸大学）

■近畿ブロック

◎樋口勝一（甲子園大学）
○福井就（大手前学園）
○坂本理郎（大手前大学）
掛谷純子（京都女子大学）
水野武（摂南大学）
高松直紀（大阪樟蔭女子大学）
仁平直（神戸国際大学附属高等学校）
北村雅昭（大手前短期大学）
苅野正美（プール学院短期大学）

■中国四国ブロック

◎堀口誠信（徳島文理大学短期大学部）
○関由佳利（高松短期大学）
吉田順子（広島女学院大学）
加渡いづみ（四国大学短期大学部）
佐々木公之（中国学園大学）
佐藤麻衣（高松短期大学）

■九州・沖縄ブロック

◎見舘好隆（北九州市立大学）
○江藤智佐子(久留米大学)
藤村やよい（久留米信愛短期大学）
井上奈美子（福岡県立大学）
天野緑郎（MC&フュ―チャーコンサルティング）
石橋慶一（中村学園大学短期大学部）
大重康雄（志學館大学）
有馬恵子（鹿児島女子短期大学）

事務局からのお知らせ

■2019 年度学会費未納の方
　遅くとも今年度中の振込をお願いいたします。来年度より郵便振替を利用しないことも検討されております。学会の円滑な運営および事務手続き軽減のため、ご協力をお願いいたします。

■ビジネス実務論集 No. 39 について
　『ビジネス実務論集』No. 39（2021 年 3 月発行予定）の投稿募集は、以下スケジュールの予定です。皆様の投稿をお待ちしております。ご質問は、学会事務局にメールでお問い合わせください。
　2020 年 7 月上旬　学会 HP にて投稿募集のお知らせ
　2020 年 8 月上旬　投稿申し込み締切

■転居および所属先やメールアドレス変更のご連絡のお願い
　当学会から発行物をお送りする際は、宅配業者を利用します。郵便局に転居届を提出いただいても、転居先不明で学会事務局に返送されてきます。発行物をスムーズにお届けするため、転居および所属先やメールアドレスに変更がある場合は、学会事務局にメールで連絡くださいますようお願いいたします。

■学会報の電子化について（再掲）
　学会報は、郵送方式からメール配信および HP 閲覧方式に変更されています。メールアドレスの登録がない方には情報・連絡が届きませんので、その場合にはメールアドレスを新規登録いただくようお願いいたします。

■実務家教員と社会人大学院生のための研究スタイル・論文の書き方　学び直しセミナー（予告）
　●スタートアップコース
　中村健壽 先生（静岡県立大学名誉教授）
　坪井明彦 先生（高崎経済大学教授）
　　令和 2 年 8 月 22 日（土）14:00－17:00（東京都内の大学を予定）　主な内容：テーマの設定とデータ収集、研究方法の種類と作法、査読とその対処について　など
　●アドバンスト・コース　量的研究分野
　米本倉基 先生（藤田医科大学教授）
　　令和 2 年 9 月 12 日（土）14:00－17:00（東京都内の大学を予定）　主な内容：アンケートの作り方、データの分析方法と統計的検定の基礎、統計ソフト SPSS の基本操作　など
　●アドバンスト・コース　質的研究分野
　見舘好隆 先生（北九州市立大学教授）
　　令和 2 年 10 月予定 14:00－17:00（東京都内の大学を予定）　主な内容:質的研究とは、M-GTA とは･･･、半構造化インタビューの方法、データ分析の作法など

新入会員の紹介（2019 年 7 月～2020 年 2 月）

■正会員

（氏名・敬称略）	（所属先）	（所属ブロック）
篠崎雅春	東京未来大学	関東・東北
村山雅江	株式会社ベネッセホールディングス	関東・東北
日影暁	専門学校東京スクール・オブ・ビジネス	関東・東北
竹内治彦	岐阜協立大学	中部
福山祐介	藤田医科大学	中部
谷口浩二	プール学院短期大学	近畿
湯口恭子	近畿大学	近畿
阪上富貴子	大手前短期大学	近畿
廣野史子	一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸	近畿

■学生会員

（氏名・敬称略）	（所属先）	（所属ブロック）
本田華乃	筑紫女学園大学	九州・沖縄

第 39 回（2020 年度）全国大会のご案内

テーマ：「新時代を展望するビジネス実務」
日時：2020 年 6 月 13 日（土）～6 月 14 日（日）
会場：北海商科大学

基調講演（6 月 13 日・土曜日）：
「北海道コンサドーレ札幌の地域に根差したスポーツビジネス」
斗澤元希（とざわもとき）氏
　株式会社コンサドーレ 経営管理部 特命担当 グループリーダー
　札幌国際大学 スポーツ人間学部 スポーツビジネス学科 教授

教育技法ワークショップ（6 月 14 日・日曜日）：
「ゲーム体験を通して SDGs 教育技法を学ぶ」
丸山宏昌（まるやまこうすけ）氏
　SDGs 公認ファシリテーター、
　札幌大谷大学社会学部地域社会学科 講師

大会実行委員会
事務局長　札幌国際大学　千葉里美
s-chiba@ts.siu.ac.jp
大会実行委員長　北海商科大学　加藤由紀子
katou@hokkai.ac.jp

懇親会：北海道の食を味わうインバウンド（訪日外国人旅客）に特化した予約専門ビュッフェレストランを予定。北海道の味覚を思う存分お楽しみいただけます。

日本ビジネス実務学会会報 No. 72
発行日：2020 年(令和 2 年)3 月 31 日
編　集：日本ビジネス実務学会　広報委員会
（堀口誠信・加藤由紀子・小松由美・中川雅人・坂本理郎・佃昌道・江藤智佐子）
連絡先：日本ビジネス実務学会事務局（藤田医科大学内）e-mail:business.jitumu@gmail.com
広報委員会専用 e-mail：2019jsabs.publicrelations@gmail.com